

令和4年度 第2四半期 (7月~9月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)回答企業数：199社
- 調査期間
令和4年7月~9月
- 調査方法
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 81・建設業 33・卸売業 20
小売業 19・運輸業 13・サービス業 33

全産業業況 DI 値は前回調査から 2.9 ポイント改善、令和3年度第2四半期からは 5.3 ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲14.6（前期比+2.9、前年同期比+5.3）、来期見通し（10月~12月）については▲11.1（当期比+3.5）となった。

新型コロナウイルス第7波の影響が懸念された中、製造業、小売業、運輸業では DI 値が前期比プラスとなった。しかし、依然として不安定な国際情勢によるサプライチェーン問題の長期化、原材料費・エネルギー価格の高騰による採算悪化、需要の停滞を懸念する声が多く聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 29.1（前期比▲4.1、前年同期比▲6.3）、来期に設備投資を「計画している」との回答は 30.5（当期比+1.4）となった。

■製造業

業況 DI 値は▲8.8（前期比+3.4、前年同期比▲3.9）、来期の見通しについては▲12.5（当期比▲3.7）となった。

半導体や EV、ソフトウェア開発が好調であるとの声聞かれる中、全般的に原材料・エネルギー価格の高騰により採算が悪化しているとの声、価格転嫁・値上交渉が困難であるとの声が上がった。不透明な海外情勢によるサプライチェーン問題の長期化、円安の影響を懸念する声も多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「原材料・人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

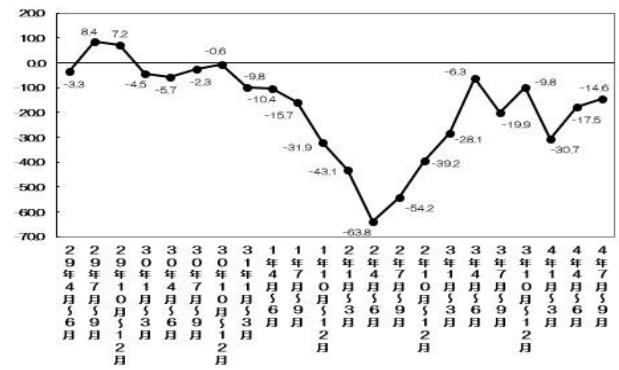
■建設業

業況 DI 値は▲35.5（前期比▲2.2、前年同期比▲28.1）、来期の見通しについては▲16.1（当期比+19.4）となった。

全般的に建築資材・エネルギー価格高騰のため利益減が見られる他、材料入手難による工期延長を懸念する声聞かれた。また、人材の確保難・人手不足が深刻であるとの声もあった。リフォーム工事や公共工事の需要が低迷しているほか、メーカーからの値上げ要請を受け、来期についても厳しいとの声が多かった。

経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

全業種



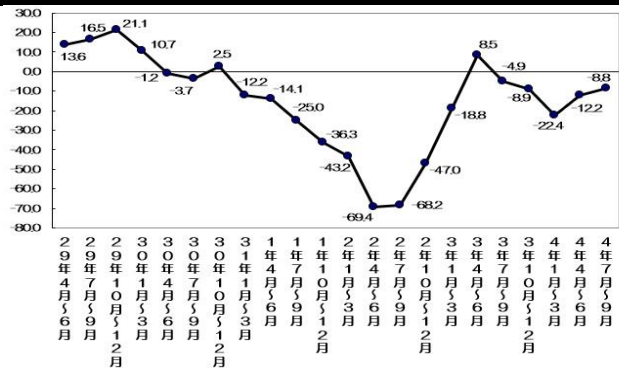
【A】前年同期（令和3年7月~9月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	
19.6%	46.2%	34.2%	▲14.6	↑

【B】来期（令和4年10月~12月）の景況見通し

良い	同様	悪い	DI値	
16.1%	56.8%	27.1%	▲11.1	↓

製造業



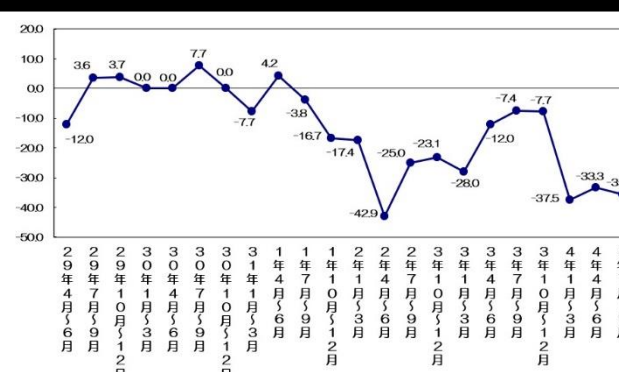
【前年同期比】 令和3年7~9月

自社の業況 ▲8.8 ↓

【来期見通し】 令和4年10~12月

自社の業況 ▲12.5 ↓

建設業



【前年同期比】 令和3年7~9月

自社の業況 ▲35.5 ↓

【来期見通し】 令和4年10~12月

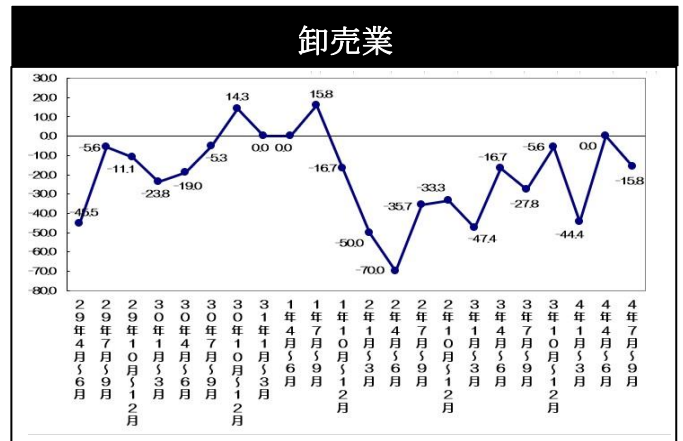
自社の業況 ▲16.1 ↑

■卸売業

業況 DI 値は▲15.8 (前期比▲15.8、前年同期比+12.0)、来期の見通しについては▲21.1 (当期比▲5.3) となった。

全般的に仕入単価や諸経費の上昇により利益確保が困難との声、価格転嫁による消費の低迷を懸念する声が聞かれた。また、新型コロナの感染状況が落ち着き、ステイホーム需要の停滞による売上低下を指摘する声もあった。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



【前年同期比】 令和3年7~9月

自社の業況 ▲15.8 ↑

【来期見通し】 令和4年10~12月

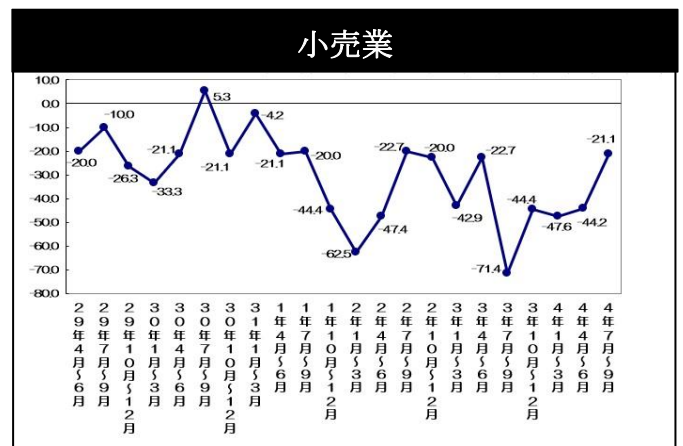
自社の業況 ▲21.1 ↓

■小売業

業況 DI 値は▲21.1 (前期比+23.1、前年同期比+50.3)、来期の見通しについては▲15.8 (当期比+5.3) となった。

全般的に客数の減少や仕入価格高騰を懸念する声が聞かれる。自動車販売業では、受注は好調なもの納期の遅れを懸念する声、食料品関連業では仕入価格上昇・経費の増加に加え、人件費の増加により採算が厳しいとの声が聞かれた。一方で、事務用品販売業や書店では顧客の購買力が上向きであるとの声、電子書籍が好調であるとの声もあった。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「仕入価格の上昇」が主に挙げられる。



【前年同期比】 令和3年7~9月

自社の業況 ▲21.1 ↑

【来期見通し】 令和4年10~12月

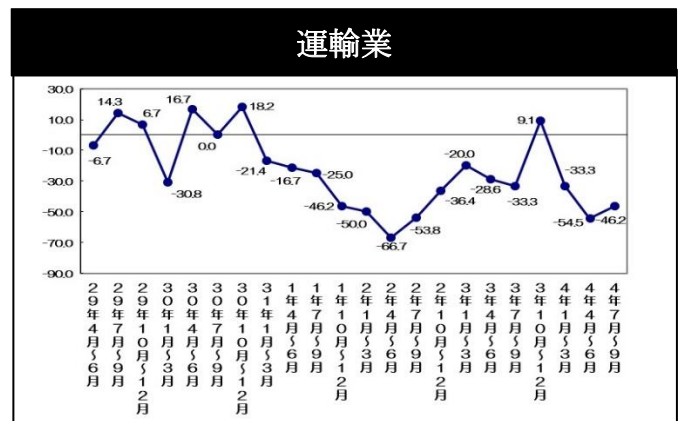
自社の業況 ▲15.8 ↑

■運輸業

業況 DI 値は▲46.2 (前期比+8.3、前年同期比▲12.9)、来期の見通しについては▲38.5 (当期比+7.7) となった。

売上が増えても燃料高、賃上げ等の経費の増加により採算が悪化しており、人手不足もあって来期についても先行きは不透明との声が聞かれた。一方で、運賃改定を一部達成できたとの声、少しずつではあるが上向きだとの声もあった。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



【前年同期比】 令和3年7~9月

自社の業況 ▲46.2 ↓

【来期見通し】 令和4年10~12月

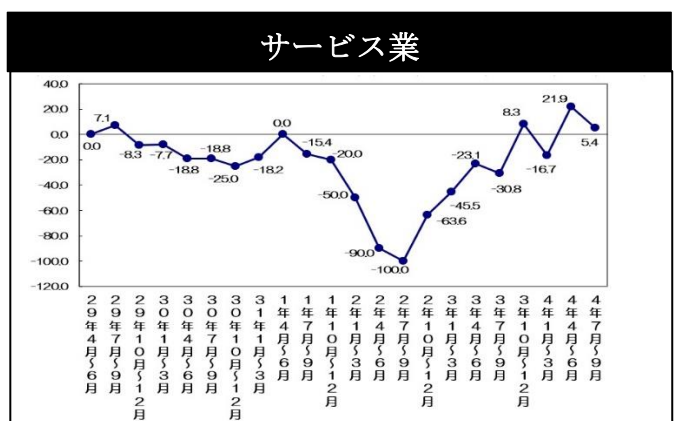
自社の業況 ▲38.5 ↑

■サービス業

業況 DI 値は+5.4 (前期比▲16.5、前年同期比+36.2)、来期の見通しについては+13.5 (当期比+8.1) となった。

イベント関連業ではコロナの影響が落ち着きつつあり、回復傾向もみられるものの、飲食・宿泊業では依然客数の減少が顕著であり、厳しい状況とのことであった。全般的に物価高、人件費の増加に加え、人材不足もあり回復が鈍化傾向であるとの声が多い。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「需要の停滞」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



【前年同期比】 令和3年7~9月

自社の業況 5.4 ↑

【来期見通し】 令和4年10~12月

自社の業況 13.5 ↑